

## 『第5回都留市男女共同参画推進フェスティバル』を振り返って

3月2日、うぐいすホール(小ホール)において第5回都留市男女共同参画推進フェスティバルが盛大に開催されました。

前半に松島ひでお・さゆりさんによる「21世紀は男女共同参画時代」と題した夫婦漫才(ジェンダー漫才)、後半には『女性の社会参画を考える!』をテーマとした行政・市民・事業者の3者によるパネルディスカッションが行われ、男女共同参画社会の実現に向けて具体的・建設的な意見が出されました。また、会場からも、多くのご意見をいただき、皆さんは時間を惜しみながらもフェスティバルは有意義に終了しました。

## ○パネルディスカッション

◎コーディネーター

池田 政子さん (山梨県立女子短期大学教授)

◎パネリスト

安田 久男さん (都留市議会議長)

後藤 敬 さん (都留市自治会連合会会長)

山本国太郎さん (谷村信用組合総務部長)



## (1) パネルディスカッションの感想

「都留市男女共同参画基本条例」が制定され、「男女共同参画宣言都市」となり2年が経過しつつある中で、今回開催された「第5回都留市男女共同参画推進フェスティバル」から何が見えてきたでしょうか。また、国が緊要かつ最重要課題として位置づけている「男女共同参画社会」の推進はどうあるべきか。そしてどこまでどんな風に進んでいるのか。このフェスティバルでパネリストの皆さんのご意見、また、コーディネーターである池田政子先生(山梨県立女子短期大学教授)のお話を通して、会場の市内外の参加者はどんな風に受け止めてくださったのでしょうか。

市議会を代表して安田久男さん(都留市議会議長)のお話は、大変重いものを感じました。全会一致で議決した「都留市男女共同参画基本条例」の制定への議員各位の熱き思いは「今後の推進に対して議会としてもしっかり取り組んでいく」との表明に大いに期待したいと思います。国の行動計画策定に準じて「都留市女性プラン」の見直しも視野に入れ、名称、内容などさらなる充実した都留市の行動計画策定は議員各位におかれても大いにお力を注がれることを期待いたします。

自治会代表の後藤敬さん(都留市自治会連合会会長)は自ら積極的に地域における女性の地位向上への取り組みをされ、また、推進への思いを語られました。地域における一つひとつの実現の実績の意義は大変大きく、その積み重ねが市全体にそして日本全体に広がっていく第一歩だと思います。地域の意識改革は最も重要であり、しかもむずかしい課題でもありますが、後藤さんの実績が各地へ少しずつでも広がることを期待します。

企業代表の山本国太郎さん(谷村信用組合総務部長)の思いも男女共同参画社会への確かな歩みを感じました。確立されている組織の中での取り組みもある意味では難しい面もあるかと思いますが、しかし組織のトップの意識こそが組織全体の意識改革を実現する最大の力であると思います。雇用者も労働者も一人ひとりの人格を認め合うことで、企業内における男女共同参画社会への取り組みが推進されるものと確信しました。

今回の「フェスティバル」は各組織のトップから、また、男性の立場から男女共同参画社会への思いを伺うことができ、大変有意義でした。このフェスティバルのパネリストの方々が、それぞれのお立場で今後さらに推進への取り組みにお力を注いでくださいますことを期待申し上げます。また、住民一人ひとりが男女共同参画社会推進のために、まず、自ら常に意識の改革に努めることの大切さをあらためて感じました。